

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅳ Independent Living Skills Ⅳ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅣ、生活支援技術Ⅴ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
石川 幸子	福祉棟2階	月・火・木・金（授業時間以外）		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「生活支援技術Ⅳ」では、身じたくや入浴・身体の清潔保持の意義について学習し、身じたくおよび身体の清潔に関するアセスメント方法や自立に向けた支援のための基本技術を習得する。さらに、利用者の状態・状況に応じた身じたくや清潔保持の援助方法、実施時の留意点について考える授業とする。</p>				
授業の目標				
<p>①身じたくおよび身体の清潔保持の意義について説明できるようにする。  ②身じたくや入浴に関する利用者のアセスメントの視点について、説明できるようにする。  ③利用者の状態に応じた衣服着脱の方法と工夫および留意点について、説明できるようにする。  ④入浴の際の環境整備の要点および入浴に関連した用具を列挙できるようにする。  ⑤衣服着脱や入浴、清拭等の介護における留意点について説明でき、基本手順に沿って安全に援助できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>介護実習室や入浴実習室での演習が主である。教員がデモンストレーションを行った後、グループに分かれて演習する。演習では、利用者役と介護者役の両方を体験し、援助の際の留意点を考えながら基本技術を習得できるようにする。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>身じたくや身体の清潔保持の意義、入浴が心身に及ぼす影響等をふまえて、利用者の状態や生活状況に応じた支援の方法を選択することができる。そして、利用者の自立やプライバシー等に配慮しながら、基本手順に沿った衣服着脱や清潔の援助を実施することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価の方法・受講時の留意点等） 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント【講義】			
第2回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助①【講義】			
第3回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助② 座位での着脱介助【演習】			
第4回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助③ ベッド上臥位での着脱介助【演習】			
第5回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助④福祉用具の活用【演習】			
第6回目	身体の清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関する利用者のアセスメント【講義】			

第7回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助① 入浴の介助（リフト浴、特浴）【演習】 （小グループで演習する、内容と日時は授業で指示する）（振り返りレポートを次回提出）	
第8回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助② 全身清拭【演習】 （小グループで演習する。内容と日時は授業で指示する）（振り返りレポートを次回提出）	
第9回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助③ 部分浴（手浴、足浴）【演習】	
第10回目	技術の確認【実技試験】	
第11回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助④ まとめ【講義】	
第12回目	利用者の状態に応じた整容動作の工夫と介助⑤ 口腔ケア【演習】	
第13回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑥ ベッド上での洗髪、ケリーパッドの作り方【演習】	
第14回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑦ ひげやつめの手入れ等【講義】	
第15回目	身じたく、入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働【講義】	
事前・事後学習	こころとからだのしくみで学んだ人体の構造や機能と関連付けて演習に臨むこと。技法の不安点は自主練習に取り組むこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問する。また、技術演習の際には身だしなみを整えて積極的に参加し、技術向上に向けて練習すること。
レポート	10%	入浴演習および清拭演習の振り返りレポートを課す。S評価のレポートは、提出期限が守られ、利用者役および介護者役の体験から、感想や学びが具体的に記述されており、援助時の留意点が列挙されていること。
調査報告書		
小テスト	20%	技術の確認として、第10回目に衣服着脱介助の実技テストを行う。評価項目は授業で説明する。
試験	50%	第16回目の筆記試験では、国家試験形式の問題を中心に、穴埋め、記述式等の問題により、知識の確認をする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①教科書：介護福祉士養成講座 第7巻 「生活支援技術Ⅱ」・第8巻 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル		(生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴと同じ)
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算13年） 「こころとからだのしくみⅣ」と特に関連の深い科目であるため、復習して授業に臨むこと。講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。自己練習をし、技術の向上に務めること。机上に携帯電話、飲み物など教材以外の物を置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。		